

領収書貼付台紙

領 収 証

様 No. _____

★ あいら敬愛会

7,115.00

但 宿泊代 2名様分

2004年11月9日 上記正に領収いたしました

内訳

現金

小切手 /

手形 /

消費税額等(%)

コクヨ ウケ-88

収入印紙

ビジネスホテル リッチ

〒887-0031 宮崎県日南市戸高2丁目1番1号

TEL: 0987-22-2111

領 収 証

No. R 696826

入金日 4年11月10日

あいら敬愛会 殿

金額				千		円
		7	16		500	

上記の通り確に領収いたしました。

但し レンタル料・ガソリン代・その他()

予約・貸渡No. 2503903

登録No. _____

	金	額	内	訳
現金				
小切手				
手形				
振込				
相殺				
合計		7	16	500

本領収証に社印、或は金額訂正したもの、複写でないものは無効とします。

収 入
印 紙

トヨタレンタリース鹿児島

〒891-0115 鹿児島市東開町5番地5 TEL 268-0100 FAX 267-5600

- 東 開 店 (099) 268-0100
- 与 次 郎 店 (099) 258-0100
- 鹿児島中央駅前店 (099) 250-0100
- 新大塚駅前店 (099) 285-0100
- い づ る 店 (099) 222-0100
- 鹿児島空港店 (0995) 58-2306
- 国 分 駅 前 店 (0995) 46-0100
- 鈴 良 店 (0995) 65-0100
- 川 内 駅 前 店 (0996) 25-0100
- 出 水 店 (0996) 63-1300
- 鹿 屋 店 (0994) 42-0100
- 指 宿 駅 前 店 (0993) 26-3600
- 名 瀬 店 (0997) 54-0100
- 奄 美 空 港 店 (0997) 63-0100
- 徳 之 島 空 港 店 (0997) 85-5500
- 龜 徳 新 港 店 (0997) 82-0100
- 種子島空港店 (0997) 27-7077
- 西 之 表 港 店 (0997) 23-3211
- 屋 久 島 店 (0997) 42-2000
- 屋 久 島 空 港 店 (0997) 43-5180
- 沖 永 良 部 空 港 店 (0997) 92-2100

飢肥城下町「食べあるき・町あるき」

主幹 飢肥城下町保存会

<飢肥城～酒谷川以北の城下町活性化の取り組み>

- ◎協力店（加入店）33店舗、あゆみちゃんマップを作成し食べあるき・町あるき地図をみながら城下町を散策する。料金800円に商品または景品（100円相当）の引換券が付いているのが特徴である。城下町は、武家屋敷の面影を残している古民家となっている。取り組みを始めて13年（だったはず）、行政の支援は初年度のみで以降は保存会で運営している。加入店も初年度十数店舗からだったが、現在、40店舗近くなっている。お城に関する施設については、日南市が保存会に管理委託していると考えられる。
- ◎油津港からも近く、観光バスの駐車場もあるため、修学旅行学生や、ツアー客の集客につながっている。大手門から以南直進の大手門通りは無電柱化している。
- ◎現在の飢肥小学校は、飢肥城本丸跡にあり、飢肥城大手門も正門として活用し（別途正門もある）、子供たちの「故郷を愛し、故郷に学ぶ」教育に繋がっている。

日南市

<日南市立中学校9校制服統一の取り組み>

平成30年

多様な性の尊重推進検討委員会発足（11名の委員で構成）

令和元年（平成31年）

5月 検討委員会から提出された提言書①が提出され、提言の中の『男女の区分けに関する事』の中に「中学生の制服」があった。

7月 わかすぎ塾研修会（市内9校の生徒会役員が一同に集まり受講・協議する研修会）において、LGBT講話を受講してもらい制服について協議

12月 わかすぎ塾研修会・こども会議にて、制服について協議

2月 多様な性の尊重に関する提言書②が提出される。

令和2年度以降は、校則の見直し（大人だけで決めず、子供たちの意見を尊重する事）と同時進行で制服検討委員会を立ち上げ進めていく。教職員、PTA役員への説明だけでなく、各自治会などでも報告会を開いている。令和4年度記者発表に至るまで、新聞・メディアでも情報発信され、制服検討委員会発足当初は、厳しい意見もあったが、令和3年度に入るとスムーズに進んでいった。制服のデザイン、各校のカラー等は子供たちの意見を反映している。

<議会改革>
別紙資料参考

<企業誘致>

日南市商店街、高齢化や廃業による衰退化。若者が働きやすい街づくりを目指し、3名のコンサルタントを入れ取り組む。若者データとして、事務系職業を希望する割合が多かったため、IT系を軸に誘致を進める。

令和4年11月現在、66社の誘致ができており、内16社はIT系企業である。

*別紙資料 日南市企業立地優遇制度・企業誘致成功奨励金交付要綱

別紙【復命事項】

1日目（11月9日）

【視察事項】 飢肥食べあるき・町あるき事業【(財) 飢肥城下町保存会】

【内容・所見】

おびのまち活性化事業として「あゆみちゃんマップ」を制作している。「あゆみちゃんマップとは、飢肥の町を散策しながら、マップについて5枚の引換券で、地元の美味しい食べ物や手作りの商品等と引き換えをし、飢肥の味や買い物を楽しむマップである。

マップは食べあるき・町あるきのみであれば800円で、有料施設4施設の入館料もついたものが1,300円となっている。

5枚のチケットは、協賛している30か所程度の商店等で100円程度のものと交換することになっている。

また、使用されたチケットは飢肥城下町保存会が1枚95円で換金する形になっており、5円が町づくりへの協賛と各商店の広告料という意味合いがあるようである。

平日の午後から散策視察を行ったが、車も50台以上、バスも入れ代わり立ち代わりで7、8台程度が来ており、城壁周辺の施設を中心に商店街まで人が多く行きかっており、このマップのおかげであることが明らかであった。

この事業を始めたのは昭和40年後半になり、宮崎で空前の新婚旅行ブームが過ぎ去り、観光客が減少したことから新たな対策として飢肥城及び関連施設の復元事業を実施している。併せて、重要伝統的建造物群保存地区の選定（伝健）をされ、道路拡張や町の景観などに関して住民が自ら考え、研究し行動していった。

様々な取り組みを行っている中で、平成21年4月から「あゆみちゃんマップ」事業が始まり、多少形を変えながら現在も続いている。

ただし、ここまで日南市と協力体制をとりながら、管理運営（指定管理も含む）を行ってきたが、現在は日南市が各施設を直営で運営しており、あゆみちゃんマップ事業を行うために、受付・事務所の施設を賃貸し活動している。

多くの課題が山積しているようだが、始良市でも参考にできる活動が多いため、観光協会や商工会などと行政がタッグを組んで、実施の検討をしてもらいたい。

2日目（11月10日）

【視察事項】 企業誘致【日南市商工政策課】

【内容・所見】

中心市街地活性化事業とIT企業誘致が密接に関係しているため、一括して説明を受けた。

日南市では、本市の魅力拠点となる中心市街地を形成するための指針となる「日南市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成24年11月30日に内閣総理大臣の認定を受けた。それに合わせて、商店街空き店舗の活用を検討したが、そもそも人口が減少し賑わいがなくなっているところに、通常の商店を誘致しても現存する商店との競争になることが予想され、根本的な活性化の対策にならず、今までと異なる視点での検討をするため、民間人の登用をして「内需の循環」「外需の獲得」「まちなみ再生」をポイントにおいて検討を実施した。

そこで、4年間で20店舗誘致を掲げ、結果として29店舗の誘致に成功し、商店街の活性化に一役買っている。ただし、空き店舗は増え続けており、以前のような活気のある商店街には戻っていない。

しかしながら、誘致した店舗のうち13店舗がIT関連の事務所であり、約100名の雇用が生まれ、商店街の消費拡大に微力ながら役に立っている状況である。

なぜ、IT関連の事務所が商店街活性化事業の行われている店舗に入ったのかというと、企業誘致をしても若者が地元ではなく、都市部へ出ていくことが続いていた。

理由としては、やりたい仕事の日南市にないということで、県外にその希望を求め、転出していた。やりたい仕事の1位は事務職で、日南市には大きな供給口がなく、倍率が高くなっていた。

そこで、IT関連で事務の請負等を専門に行う会社へのアクションを行い、平成28年から少しずつ誘致が出来てきている。

そこで働く従業員の多くは20歳代で、IターンやUターンはもちろんのこと、地元でそのまま就職した者もあり、軌道に乗ってきている。

ただし、現在は企業誘致に関して間口を広げていない状況だと聞いた。理由は誘致したIT企業同士での従業員の取り合いが始まりつつあり、これ以上IT関連の事務所が増えてしまうと、働き手不足になることが予想されることから、少し抑えているとの事だった。

ただ、企業誘致と言って、企業に事務所を構えてもらうことが目的ではなく、どうすれば日南市のためになるのかを、しっかりと研究し、ピンポイントで政策を行い、結果を出したことは素晴らしいことである。

目的と目標をしっかりと定め、政策を行った結果、良い結果となったと思われ、このような姿勢で行政が事業に臨むことを求めていると考える。

【視察事項】 市立中学校新制服導入事業【日南市教育委員会】

【内容・所見】

日南市は令和5年度から9校の市立中学校の制服を改めるとともに、制服の統一することとしている。

2019年に「多様な性の尊重推進検討委員会」で、男女の区分けや制服に関する提言が出たことをきっかけに制服検討委員会が立ち上がり、新制服の導入と方針を協議してきた。

新制服は伸縮性がある素材で動きやすく、全て家庭で洗濯が可能であり、価格も現行のものよりも抑えられた。また、ズボンやスカートは性別を問わず3種類から選択できるほか、夏用としてポロシャツを導入し、性別に関係なくお下がりとして再利用できるなど家庭の経済的負担を抑える効果も考えられている。

移行に際して、地域から多少の反対意見などが出たというが、制服検討委員会等の流れが地元新聞などに取り上げられており、最終的には反対意見を聞かなくなっていたという。

また、日南市では「わかすぎ塾」という市内中学校の生徒会役員等を集めリーダー研修等を行う事業を行っており、その研修でLGBT講話と制服について協議を実施し、子どもたち自身の声も聞いたうえで、制服検討委員会の立ち明けとなったという。

時代の変革ということで、人権にかかわる事項については、時間を置かずに検討していくことが望まれている中で、さらに当事者であることも達にも考えさせ、問題の解決に取り組んだ教育委員会の姿勢には感服した。

始良市においても、子どもたちを含めた形で、男女の区分けに関することを考えていくことが求められていると考える。制服という目に見える形のものであったが、大きく検討すべきことは人権に関する市の方針を策定するにあたり、若者の声を取り入れることが当然だという日南市・日南市教育委員会の姿勢を見習うべきである。

始良市男女共同参画課などの施策を進めるにあたり、若者の声の拾い方を検討してもらいたい。さらに、教育委員会でも生徒会役員などに対するリーダー研修のメニューを検討してもらいたい。

【視察事項】 議会改革（定数削減）【日南市議会】

【内容・所見】

日南市は平成21年3月に1市2町合併を行っており、それに伴い議員定数を30人と定めたが、旧日南市議会議員選挙の平成23年4月まで在任特例により42人在籍という形をとった。

そうする中、平成22年8月に、自治会連合会から「定数削減を求める陳情書」が提出され、翌月「議員定数に関する調査特別委員会」を設置し付託され、本会議で不採択となった。

また、同定例会において、議員提出議案「議員定数条例（30人→24人）」及び「議員定数条例（30人→26人）」が出されるもどちらも否決となっている。

平成23年4月の改選で、合併時に決定していた30人が当選。その後、同年8月に、自治連合会から「定数削減を求める陳情書」が提出され、議会改革調査特別委員会に付託され、①類似団体との比較検討・②市内27団体の代表者と意見交換会を開催などをし、陳情については同年10月3日に採択された。

また、併せて議員提出議案「議員定数条例（30→22人）」が可決され、平成27年4月の改選では定数を22人とすることが決定した。

平成27年4月に、22人が当選したが、平成30年3月に、自治会長から議員定数に関する要望を受け、意見交換を実施し、その後「議会改革推進特別委員会」で議論協議等を行い、議員定数と併せて議員報酬の増額等も各市議会を調査研究した。

そこで、平成30年6月に、議員提出議案「議員定数の一部を改正する条例（22人→19人）」が可決し、平成31年4月の改選は19人で実施された。

現在は19人となっている（約2500人の市民に対して1人の議員と考えている）常任委員会は3つで構成されており、議長を除く18人が配置されている。人数としてもこれが限界であると考えているようだった。

合併当時は6万人程度であったが、この10年で約1万人が減少し、5万人を切ってしまったため、議員定数の削減はやむを得ないとの声が多数を占めていたと聞く。

ただし、これ以上の削減は委員会構成などを考えると検討できるものではないということで、当面はこのままで進めていく考えであるとの事であった。

【視察事項】 スポーツキャンプ誘致事業【※担当者なし】

【内容・所見】

日南市には、春・秋に広島東洋カープと埼玉西武ライオンズの二球団がキャンプを行うこととなっている。

広島東洋カープの拠点である天福球場はビーラインパークあいら野球場と設備自体には大きく変わらないが、市街地近くにある球場で、宿泊ホテルまで徒歩で5分程度であり、油津商店街などについても恩恵を受けられる状態になっている。

また、球場自体もキャンプ用に使用するネットなども置きっぱなしになっていると思われ、使い勝手がいいと思われる。

さらに、球場近くの油津駅はカープカラーになっており、まちを挙げて応援しているような雰囲気が出ている。

始良市でも大学野球やその他スポーツでキャンプの誘致を行っているが、宿泊場所と練習場所の距離が大きな問題であり、なかなか誘致が進まない理由を改めて感じた。

スポーツキャンプを誘致する際には、宿泊場所と練習場所の移動をピストン輸送するなどの対策ができれば、誘致が可能なのではないかと考える。

【視察事項】 新庁舎建設事業【※資料のみ】

【内容・所見】

現在、本庁舎を解体し、同敷地に建設中。

来年5月に新庁舎に移転予定

2日間の視察研修から

【私見】

同じ時期に合併をした市であるが、市の成熟度に差を感じた視察研修となった。特に人口減少が大きな問題となっている部分において、危機感を強く持って議会でも審査がなされているようだった。

また、施策においても、職員の熱い想いを感じるものが多く、市がリードして様々なことを実行しているように感じた。

ただ、飢肥城下町については、これまで外部団体への委託だったものが直営になることで、団体との信頼関係に若干ひびが入ってしまっているようにも感じたため、どこまでを自分たちでやるのか、市民に任せるのか、という距離感は本当に大切だと感じた。

日南市については、高等学校以上の学校がないため、若者の流出を止められないのは変えられない事実であると認識し、UターンやIターンの若者をどのように確保していくのかという視点で、各事業がなされており、本市でも見習うべきではないかと感じた。

さらに、日南市で子どもたちを育てていこうという考えで、「わかすぎ塾」でリーダー研修を行っていることは、本市でも取り入れるべきだと考える。ここで、子どもたちと大人が向かい合い、しっかりと話をしていることが日南市は残すべきまちであるという考えに至る理由のようにも感じる。

今後も日南市の動きには注視をし、機会があれば再度視察研修しながら、日南市の成果を見ていきたい。